

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	松本 綾子
論文担当者	主査 島 正之
	副査 若林 一郎
	副査 増山 理
学位論文名	The association of alcohol and smoking with CKD in a Japanese nationwide cross-sectional survey (特定健診における慢性腎臓病(CKD)に対する飲酒量と喫煙の影響)
論文審査の結果の要旨	
<p>慢性腎臓病(CKD)は糸球体濾過量(GFR)の低下と蛋白尿等を特徴とする腎臓の障害である。これまでに喫煙はCKDの発症・進展および蛋白尿の危険因子であることが示されている。一方、飲酒との関連については、少量の飲酒が蛋白尿の出現を低下させるとの報告はあるが、飲酒量と喫煙の交互作用についての報告は少ない。本研究は、日本人における飲酒量及び喫煙とCKDの関連性を明らかにすることを目的とした。解析対象は、2008年度に特定健康診査を受診した受診者(40歳以上)506,807人のうち、8県で検討項目のデータがすべて得られた292,013人である。飲酒量は「ほとんど飲まない」「時々」「毎日1合未満」「毎日1~2合未満」「毎日2~3合未満」「毎日3合以上」に分類した。アウトカムは、蛋白尿<math>\geq(1+)</math>と<math>eGFR &lt; 60 \text{ ml/min/1.73m}^2</math>とし、多重ロジスティック回帰分析を用いて、喫煙の有無別に飲酒量との関連を検討した。その結果、蛋白尿<math>\geq(1+)</math>をアウトカムとした解析では、男性非喫煙者において「毎日1合未満」、「毎日1~2合未満」、女性非喫煙者において「時々」のオッズ比は有意に低下していたが、喫煙者では男女ともに有意ではなかった。<math>eGFR &lt; 60 \text{ ml/min/1.73m}^2</math>をアウトカムとすると、男性では喫煙者・非喫煙者ともに飲酒量が増加するとCKDのリスクは有意に小さく、女性も非喫煙者では同様であったが、喫煙者のうち少量飲酒者では有意ではなかった。以上より、非喫煙者では少量~中等度の飲酒はCKDのリスクを低下させる可能性があるが、喫煙者ではこうした関連は見られず、喫煙が飲酒による腎保護効果を変化させる可能性が示唆された。</p> <p>本研究は、特定健診受診者という日本人の膨大なデータを用いて、CKDに対する飲酒量及び喫煙の影響を明らかにしたものである。この知見はCKDの発症・進展を予防するための患者への保健指導等に極めて有用であり、学位授与に値すると判断した。</p>	